

「内達-動乗勤の改悪が『成果である』とは何だ!」「現場の声を聞け」 「高崎・北海道路線が過員をもたっている」本部は「やささかわかるが」 「本部」革マルの裏切りに、弾効の発言あいつぐ

日刊動労千葉

84. 8. 11

No. 1714

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（22）七二〇七

動労千葉40回全国大会批判

その3

動労「本部」第40回全国大会の二日目は、「経過報告」に対する質疑応答が行われ、多くの代議員から革マル反動分子の裏切りを批判する意見が出されました。とりわけ、「内達-動乗勤」の裏切りを弾劾する修正動議が提出され「職場と仕事と生活を守るために働こう」なる反動方針のもとで、あらゆる闘いを裏切ってきた動労「本部」革マルに対する組合員の怒りが叩きつけられました。

革マルの裏切りに怒りの発言

「経過報告」をめぐる論議の中では、動労内の真面目な代議員から「働こう運動」路線による「59・2」「動乗勤」をはじめとする裏切りの結果として悲惨な状態におかれている全国の組合員の怒り、革マル執行部を弾劾する次のような意見が出されました。

- ① 本部方針を踏襲して闘ってきたが、不安、不満がある。四〇〇人、実質的に七〇〇人の「過員」が「要員センター」にいるが、機関士が乗務できないくやささを本部はわかっているのか。内達問題は労働協約改悪だ。なのに40時間のクリアーは成果であるとはどういうことか。
- ② 職場の組合員の声を聞くことが今必要だ。動労は職場と仕事と生活を守る闘いを決定したが、高崎や北海道の結果が「過員」をもたしている。

「国鉄を国鉄として維持するためには骨身も削る」というが、合理化により一方では「過員」が生じ、一方では労働強化により疲労が重なっている。合理化絶対反対の闘いをやるべきだ。

「再建フォーラム」の破産は明白

現場労働者の苦闘を代弁する代議員の訴えに対し、組織部長革マル・緒方は「絶対反対で闘えなくてという人がいるが、どう闘うのかという点が抜け落ちている」などと、自らは闘う気がないことをタナにあげ「闘えというならどう闘うのかいつてみる」と恫喝し、「絶対反対やストライキでは何も生み出さない」といいなし、闘うべきではないストライキ反対の本音を暴露しました。

そのうえで緒方は、「7・5/6総行動について触れていないのは何なんだ」などと、自民党、

当局への哀願行動を当然にも評価しなかった良心的組合員に八つ当たりしたのです。

一方、革マル反動分子と追随者は、口をそろえて「7・5/6総行動」をほめそやし、骨身を削って働くことの意義と教訓なるものを吹聴していました。

彼等は「7・5/6再建フォーラム総行動は、自民党から日本共産党まで集め、国鉄悪玉論の世論の包囲網をうち破る、逆包囲網を実現し、大成功をかちとつた」と自画自賛しています。

しかし、敵の包囲網を打ち破る闘いは、ストライキ・実力闘争以外にありません。

動労「本部」革マルの「再建フォーラム」は、「経営参加」そのものであり、「7・5/6総行動」は包囲網を打ち破るどころか、臨調の尖兵となつて、自ら包囲網の中に参加していったということなのです。

革マル反動分子の言動とは裏腹に「7・5/6総行動」は完全に破産したのであり、その事は代議員の発言の中に鮮明に示されているといえます。

「動乗勤の裏切り弾効」の修正動議

そして、13地本、3分科会の代議員の連名により、「内達集約は大幅な労働条件の改悪であり、労働強化であることはまぎれもない事実である。『動労主導』で集約した責任を『60・3ダイ改』において誠実にはたせ」との修正動議が出されました。

修正動議は、革マル分子の汚ないヤジの中で採決となり、二二七名中賛成五二名で否決されました。

このことは、革マル反動分子の「働こう運動」「産報化」路線に、多くの動労組合員が反対していることを示しています。

動労内の良心的組合員と連帯し、革マル反動分子追放一掃、動労大改革を実現しなければなりません。（以下次号につづく）